

令和6年度血液製剤使用適正化説明会  
令和7年1月24日

# 血液製剤の適正使用推進に向けた 実態調査の経緯と今後の課題

宮城県合同輸血療法委員会事務局

# 実態調査の経緯等

- 2007年（平成19年）  
各医療機関の輸血管理体制に関する**実態調査**
- 2018年  
**自己血輸血に関する実技研修会**
- 2019年  
**認定輸血検査技師による検査実践研修**  
**輸血療法委員会の設置推進運動**  
**輸血療法委員会スターターキット**を委員会未設置の4医療機関に配布
- 2020年  
**診療科医長及び看護師長対象のwebアンケート（10問）**  
（製剤有効期間、輸血後感染症検査、トリガー値等）
- 2021年から  
**周知度調査**
- 2022年から  
**実態調査（隔年）**  
**血液製剤使用適正化説明会（web配信）**
- 2023年から  
**看護師のための輸血研修会（集合型）**

# 病院を対象とした設問項目

## 【1. 医療機関基礎データ】

1. 全麻手術件数、心臓手術、造血幹細胞移植、血漿交換 研修医在籍人数、**輸血患者数**、在宅輸血患者数、アルブミン投与患者数、アルブミン使用総量
2. 輸血用血液製剤の廃棄数
3. 輸血用血液製剤の院内在庫有無、**院内在庫数**

## 【2. 輸血医療の管理体制について】

1. 輸血管理料取得(2020年度末時点)
2. **院内輸血療法委員会の設置状況**、開催回数
3. 輸血検査を担当可能な技師人数(平日日中、夜間休日)
4. 輸血前に院内又は院外で実施する検査
5. 交差適合試験に間接抗グロブリン試験(間接Coombs試験)を含んでいるか。
6. 輸血後感染症検査に関する「輸血療法の実施に関する指針」の改正(令和2年3月)後、どのような体制を取っているか。
7. **使用済みの輸血用血液製剤のバッグを数日間、冷蔵保存しているか。**
8. 日本輸血・細胞治療学会の輸血機能評価制度(I&A)を取得する予定はあるか。

## 【3. 輸血関連教育・認定看護師の院内活動について】

1. 血液製剤の取り扱いや**安全適正な輸血**、使用指針等の浸透を図る、医療職対象の院内研修会等の実施状況について。
2. 日本輸血・細胞治療学会、日本自己血輸血学会の認定を受けた看護師(臨床輸血看護師、自己血輸血看護師、アフエーシスナース)は在籍しているか。在籍している場合、院内における認定看護師の役割、活動内容について。
3. 日本輸血・細胞治療学会認定の臨床輸血看護師が不在の施設において、今後、臨床輸血看護師を育成していく予定はあるか。

## 【4. 輸血副作用の対応について】

1. 重篤な副作用発生時の対応方法、緊急連絡方法を文書化して輸血実施場所に整備しているか。

## 【5. その他】

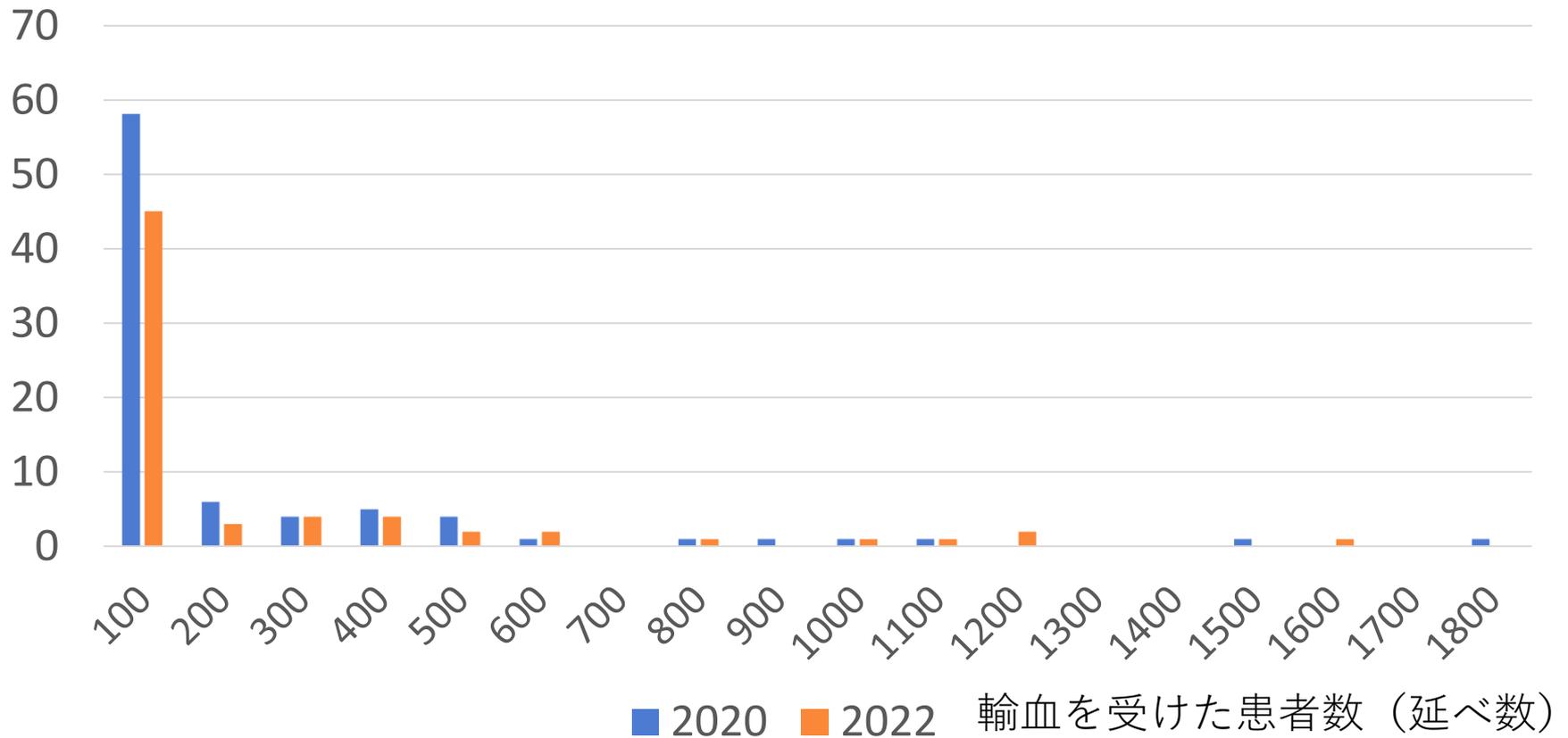
1. 調査対象期間に発生した輸血に関連したヒヤリハット事例について。
2. 学会認定輸血検査技師による実地の輸血検査の出張研修会のご要望について。
3. 日本輸血・細胞治療学会認定医ならびに認定看護師による出張講演会のご要望について。
4. 宮城県合同輸血療法委員会が作成した活動報告書の活用方法について。
5. 宮城県合同輸血療法委員会が作成した活動報告書の活用方法について。
6. 宮城県合同輸血療法委員会に対するご意見や、ご要望等について。

# 実態調査の対象と回答率

	2020年	2022年
調査を依頼した 医療機関の数	112	119
有効回答	77	69
回答率	68.6%	58.0%

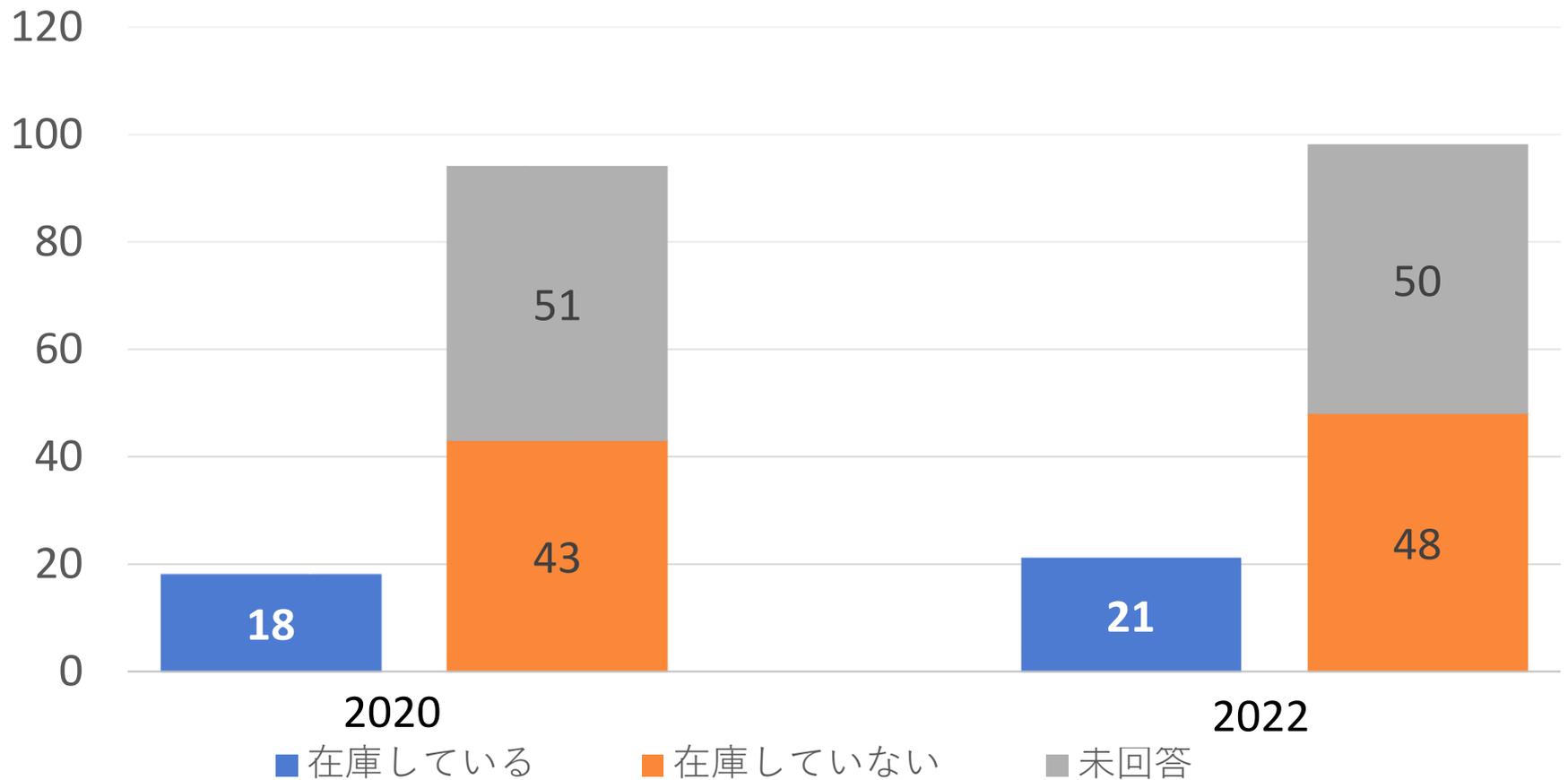
# 輸血を受けた患者数（延べ数）からみた医療施設の数

施設数



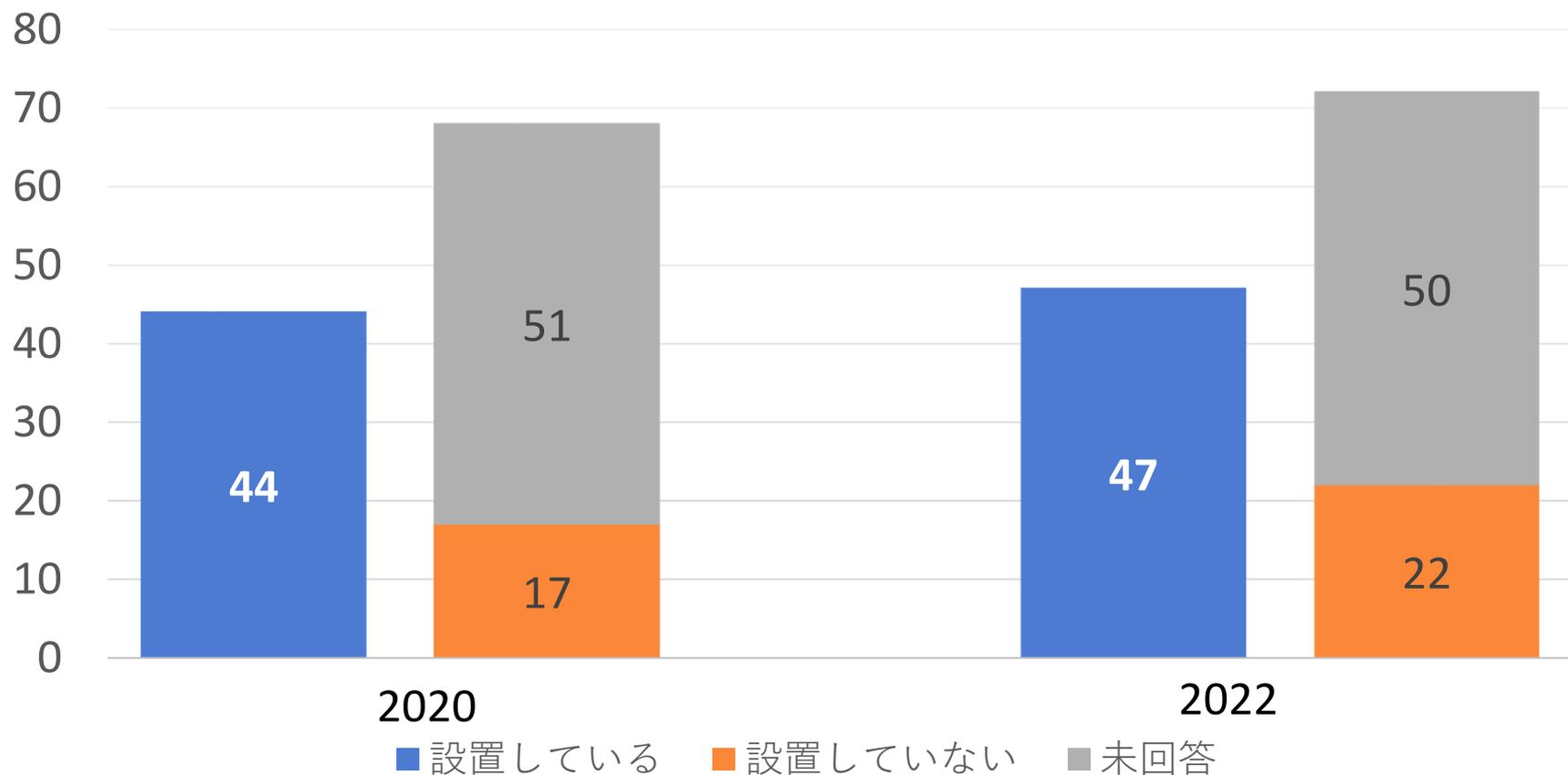
# 院内の在庫について

(施設数)



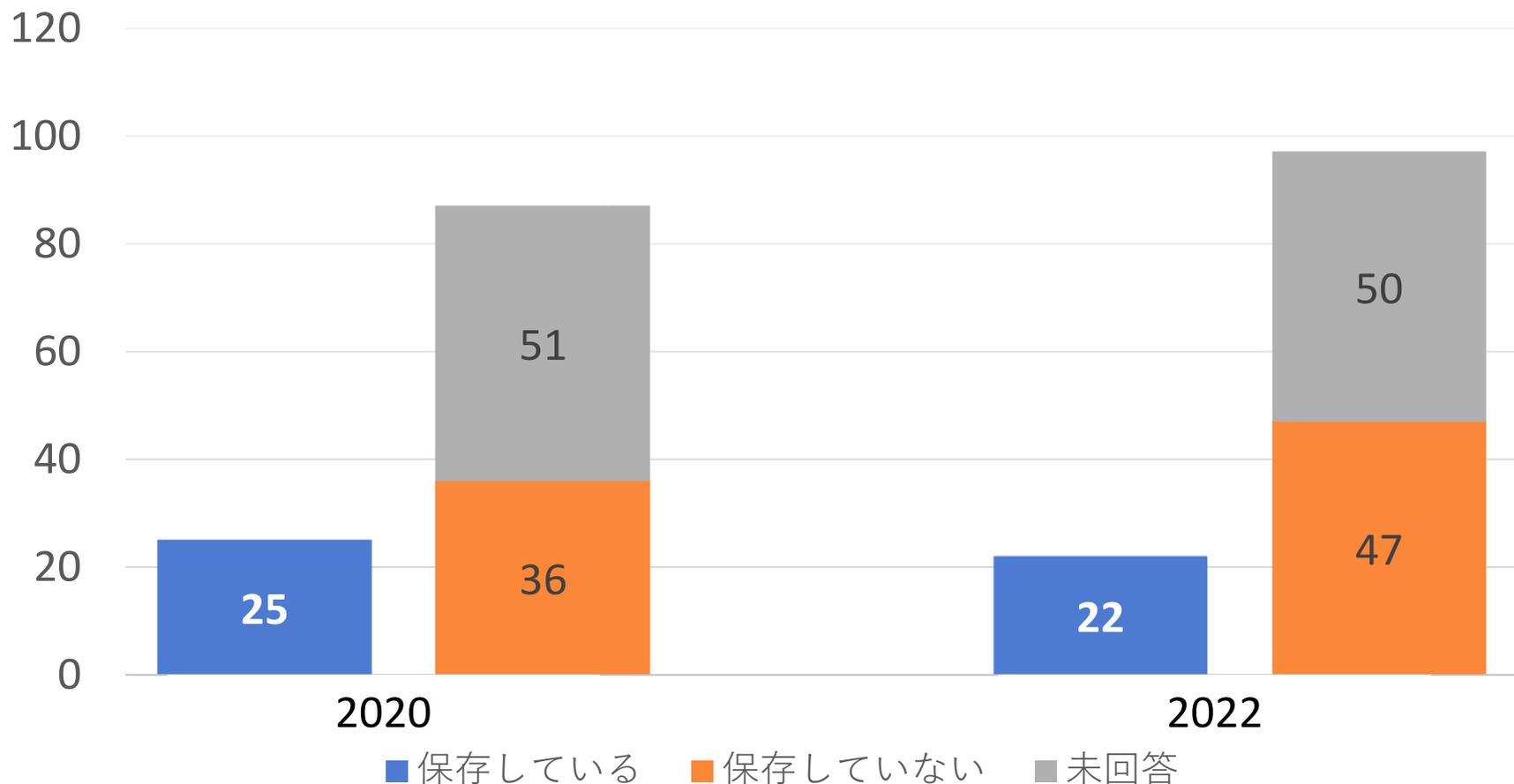
# 院内の輸血療法委員会について

(施設数)



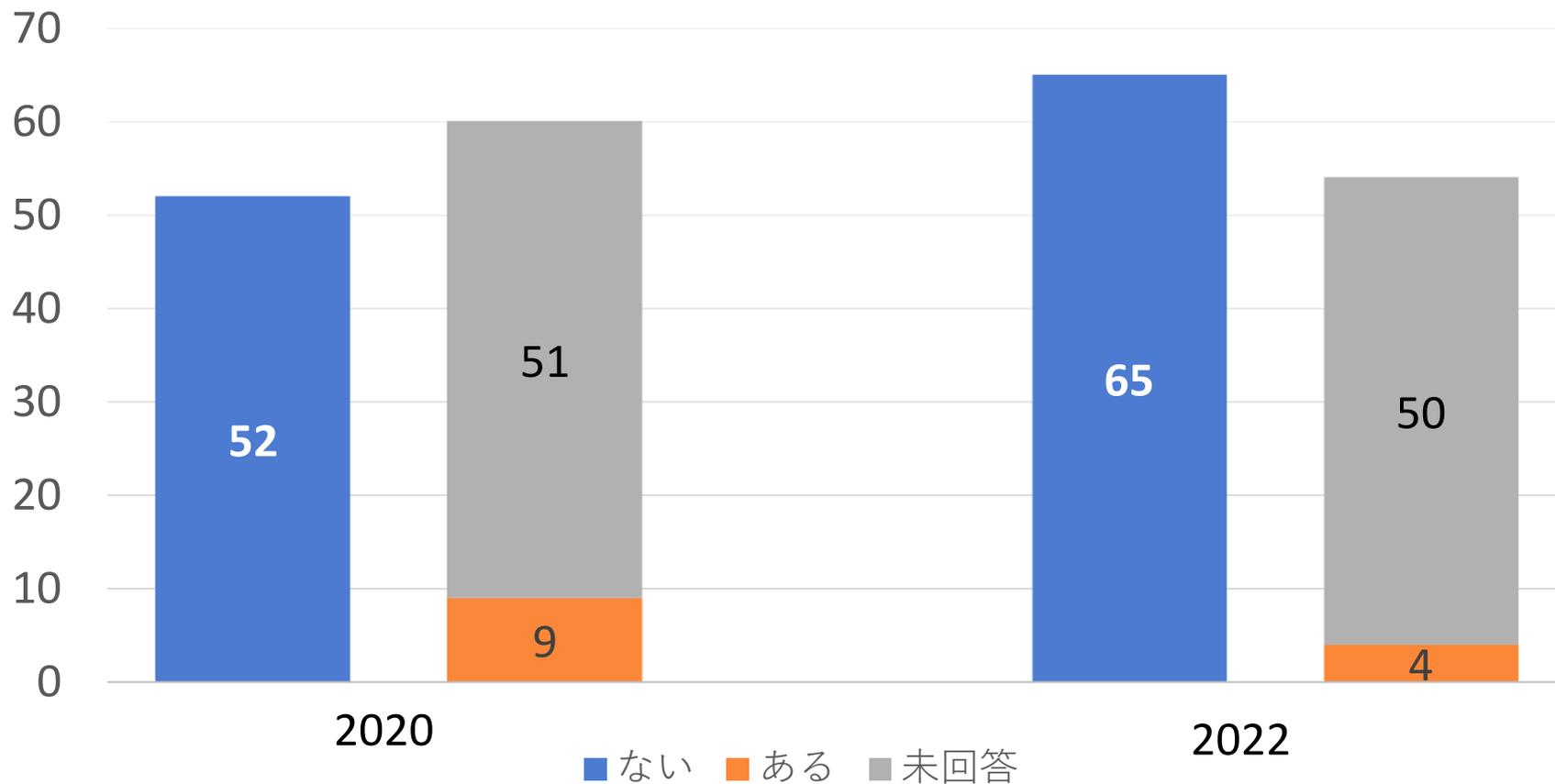
# 使用済みバッグ保管について

(施設数)



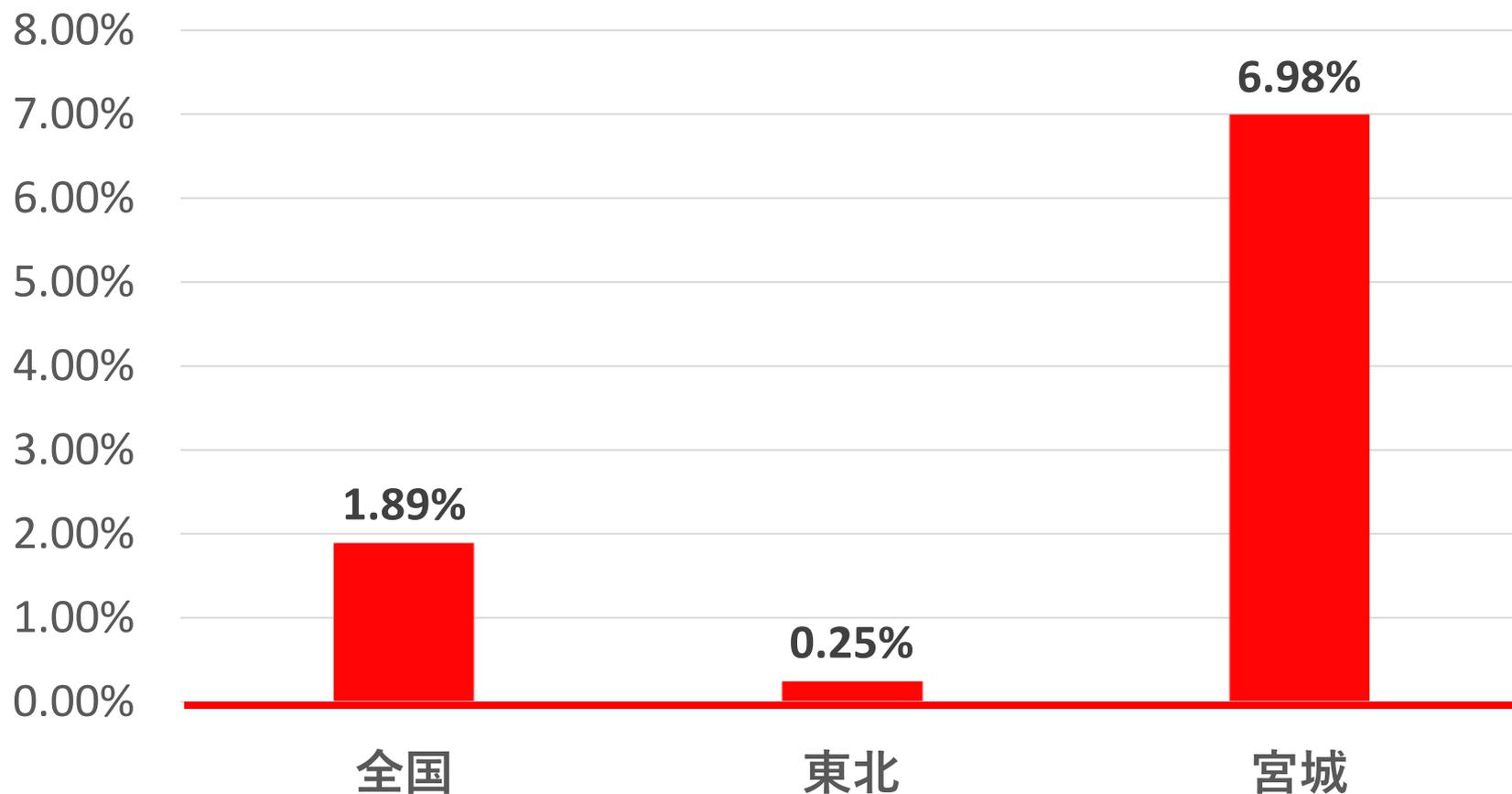
# 輸血部門から見て不適正な輸血について

(施設数)



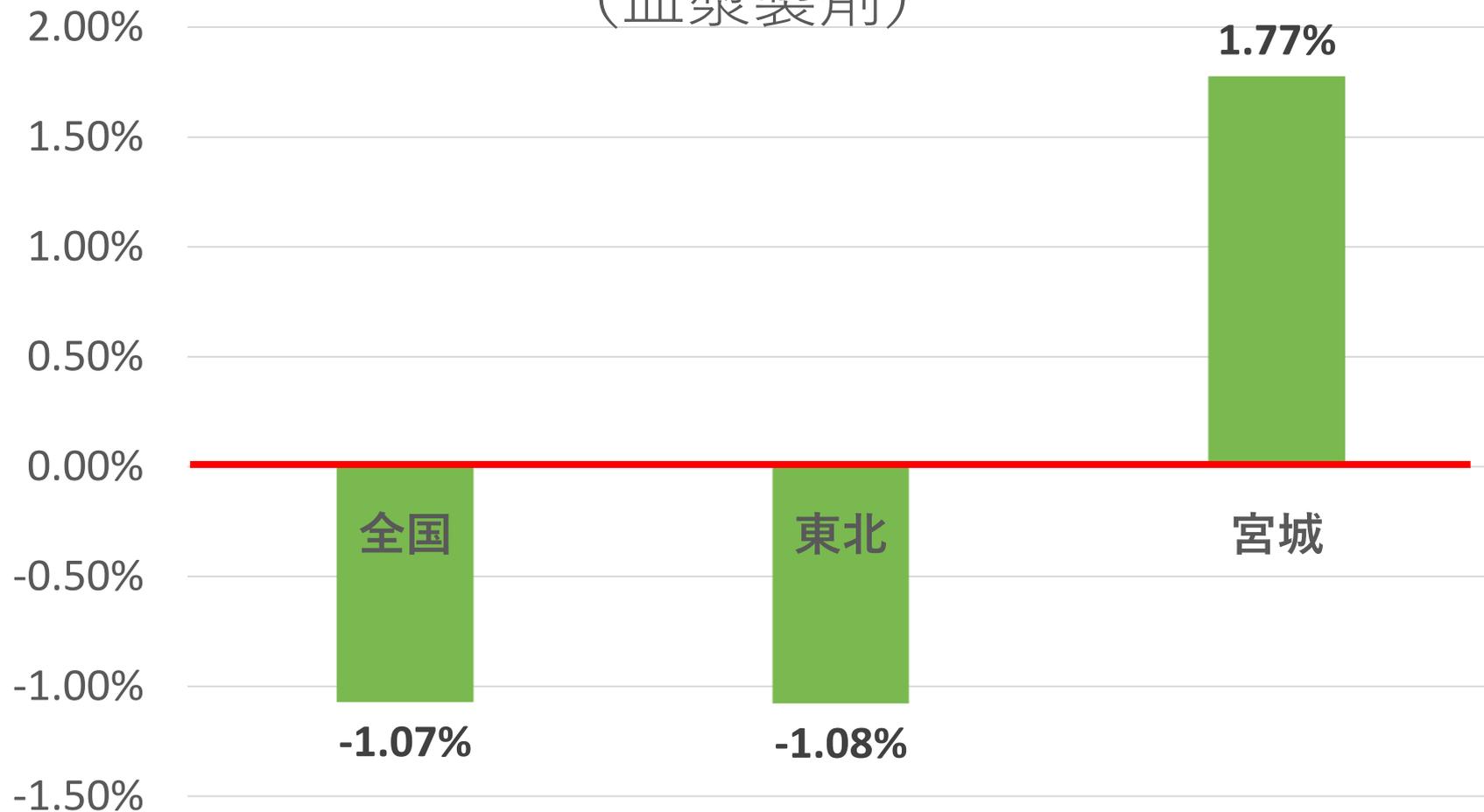
# 供給の伸び率（2019年度と2023年度の比較）

## 赤血球製剤



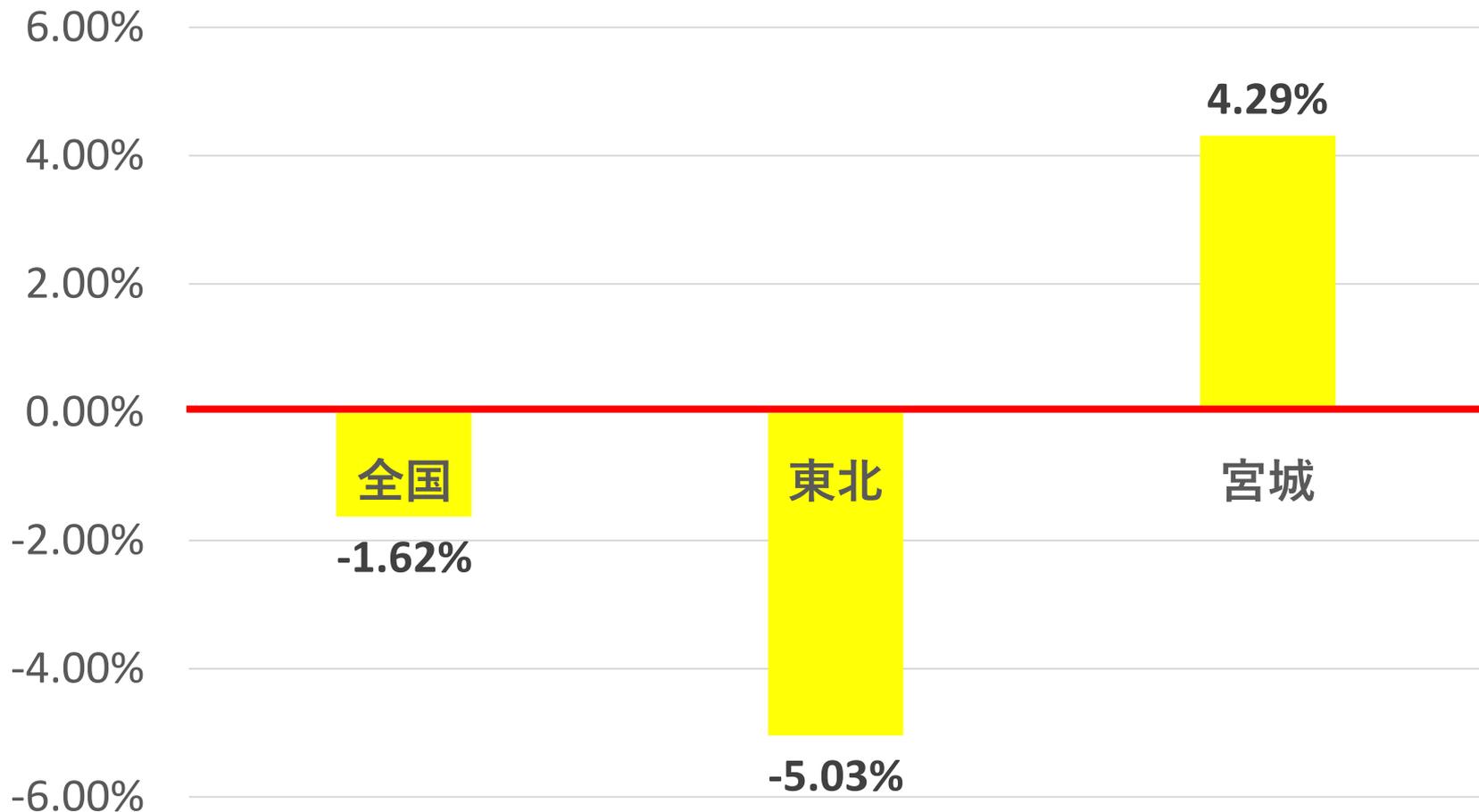
# 供給の伸び率（2019年度と2023年度の比較）

（血漿製剤）



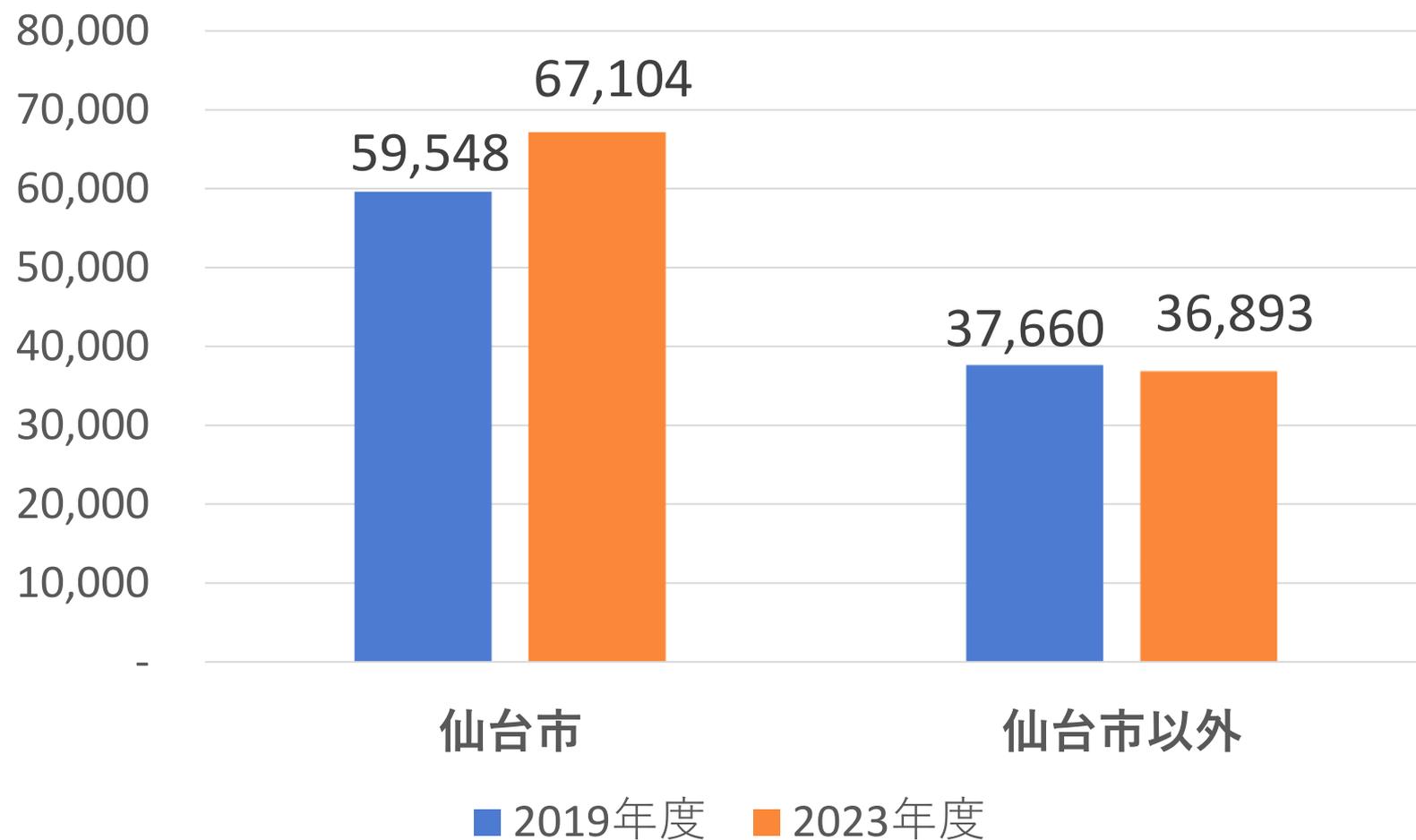
# 供給の伸び率（2019年度と2023年度の比較）

（血小板製剤）



# 宮城県における供給量の変化（赤血球製剤）

単位数



# 今後に向けて

宮城県の医療は大きく変化しつつある。  
実態調査を元に医療機関を支援していきたい。